

地方創生推進交付金事業 評価・検証シート 【令和7年度実施分】

《内部評価》（100 点満点） 個別項目についてそれぞれ評価しています。

	評価項目	A (13 点)	B (9 点)	C (5 点)	D (1 点)
有効性 (26 点)	KPI 達成への貢献度	最も効果的である	概ね効果的である	やや効果的ではない	効果を見込めない
	総合戦略への貢献度				

	評価項目	A (14 点)	B (10 点)	C (6 点)	D (1 点)
有効性 (14 点)	期待した効果の達成度	最も有効的である	概ね有効的である	やや有効的ではない	有効的ではない

	評価項目	A (10 点)	B (6 点)	C (3 点)	D (1 点)
効率性 (30 点)	コスト効率	最も効率的である	概ね効率的である	やや効率的ではない	効率的ではない
	手段の最適性	最適の方法である	概ね適切である	やや適切ではない	適切ではない
	受益者負担は適切か	最適の方法である	概ね適切である	やや適切ではない	適切ではない
持続性 (30 点)	必要な体制は整っているか	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない
	必要な技術はあるか	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない
	必要な財源の見通し	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない

《総合評価》 個別項目の合計点により、総合評価をしています。

	得点率	得点	目安となる考え方
A	80%以上	80 点以上	計画通りの実施が適当
B	79～50%	79 点～50 点	一部見直しで足りる程度
C	49～20%	49 点～20 点	見直すべき項目がある
D	19%以下	19 点以下	事業の統合、廃止等の検討が必要

若者・女性に選ばれる持続可能な地域公共交通事業

令和 7 年度事業額：7,185,740 円（総事業費 28,246,740 円）

交付金充当額（補助率 1/2）：3,592,870 円（総交付額：14,122,870 円）

評価対象期間：令和 7 年度（事業実施期間：令和 7 年度～令和 9 年度）

《事業の概要》

地方創生としてめざすべき「若者・女性に選ばれる津島」に向けて、公共交通サービスの利便性を向上させることは、重要な施策であるとする。

平成 31 年 2 月に実施した市民意識調査の結果から、本市に居住している若者・女性は、公共交通サービスの利便性を重要視しているにもかかわらず、現状本市の公共交通サービス施策に対して不満を抱えていると推測され、この不満が市外に転出してしまう一つの原因ではないかと考える。市外に転居したいと思う理由として「交通が不便」との回答が最多であることもその証左であると推測される。

このことから、公共交通サービスをいかに向上させるかが若者・女性から選ばれるまちとするための課題であるとする。また、本市は名古屋市のベッドタウンとしての側面もあることから、いかに通勤・通学先である名古屋へのアクセスを向上させるかも「若者・女性に選ばれる津島」の実現に向けての課題の一つである。具体的な課題としては、以下の 4 点が挙げられる。

- ①若年・女性が通う学校や職場が多数ある名古屋市や近隣市町村へのアクセス向上に向けて、いかに交通拠点である最寄り駅までの交通利便性を高めるか。
- ②令和 6 年度に実施した公共交通アンケートにおいて不満が多かった停留所・ルート・ダイヤなどの分かりにくさについて、いかに適切な情報を提供するか。
- ③巡回バスは高齢者が利用するものという現行のイメージを払拭し、いかに若者・女性が利用したくなる機運を高めるか。
- ④今後人口減少に伴い、利用者が減少していく中、持続可能な公共交通のため、いかに収益性を向上させるか。

上記で挙げた課題について、以下の事業を実施することで解決を図っていく。

- ①通勤・通学時間帯に巡回バスを運行する実証実験を実施する。また、その結果を踏まえ、2027 年度からルートやダイヤなどを見直した上で、新たな形による巡回バスの運行を開始する。
- ②巡回バスのリアルタイムの運行情報が直感的に視認できるデジタルマップを導入する。
- ③生活情報誌の発行やギャラリーバスの実施など巡回バスへ関心や愛着を持ってもらうための事業を実施する。また、県内の学生と官学連携で、生活情報誌や若者・女性向けの時刻表・運行ルートマップを発行する。
- ④新たに作成する生活情報誌、時刻表・運行ルートマップへの企業広告を募る。また、D X の一環として、オンライン上で購入できるデジタルチケットを導入する。

これらの事業を実施し、サービス水準が向上された公共交通サービスを実現することで、若者・女性の定住・移住を促すとともに、「人生を過ごす上での心地よさ、楽しさ」を備えた地域をめざすものである。

<<事業の進捗状況>>※主な事業を記載



パンフレット表紙

<<巡回バス通勤・通学対応実証実験事業>> 所管：企画政策課

令和6年度に実施した巡回バスにおける通勤・通学時の運行等に関する市民、市内企業、市内高校生に対するアンケート調査において、通勤・通学時の巡回バスの運行についてニーズがあったことから、巡回バスの通勤・通学対応の実証実験を実施した。また、交通空白地帯となっている地域を運行ルートに含め、当該地域におけるニーズも併せて確認した。

若者や女性の利用促進に向けて、オンライン上で購入及び利用ができるデジタルチケットの定期券を販売するため、CentXを導入した。

【津島駅～老松住宅線】

- ① 実施期間 令和7年11月4日（火）から令和7年12月26日（金）まで（38日間）
- ② 利用実績 利用者194人（大人193名 小人1名） 定期利用39回（購入者1名）

【青塚駅～永和駅線】

- ① 実施期間 令和8年1月13日（火）から令和8年3月6日（金）まで（37日間）
- ② 利用実績 利用者167人（大人166名 小人1名） 定期利用34回（購入者1名）

<<KPIの状況>>

	指標名	基準値 (現状値)	中間 目標値		最終 目標値	累計	最終目標値の実施状況 に関する評価
		2024	2025	2026	2027		
指標1	20歳から29歳までの人口における社会減の縮小数（人）	▲30	0	0	11	11	新たな形による巡回バスの運行を開始する前ではあるが、20歳から29歳までの人口における社会減は大きく縮小しており、子育て支援などの政策が実を結び、成果としてデータに表れたものではないかと考える。
	実績値		24				
指標2	乗車人数（日常生活に不可欠なサービスへのリーチ度合いに該当）（人）	178	40	10	50	100	2025年度目標値には至っていないが、1日当たりの乗車人数については10人増加し、188人となった。
	実績値		10				
指標3	デジタルマップの閲覧者数（回）	0	0	5,000	6,000	11,000	デジタルマップについては、2026年度導入予定のため、2025年度の閲覧数の実績は0回である。
	実績値		0				

指標 4	広告事業収入（千円）	1,320	0	0	800	800	2025 年度実績は、新たな取り組みを行う前であるため、例年どおりの広告事業収入となっている。
	実績値		0				
指標 5	デジタルチケットの購入者数（人）	0	20	5	25	50	実証実験でのデジタルチケットの購入者は2人であった。
	実績値		2				

《成果》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

「巡回バス通勤・通学対応実証実験事業」の総論は以下のとおりである。

【津島駅～老松住宅線】

- ・ 朝便については津島駅 7：40 発の利用者が最も多く、津島駅から乗り、老松住宅と西地域防災コミュニティセンターで降りる人数が最も多かった。夕方便については、利用者が特に多くなる時間帯はなかった。
- ・ 1 日の平均利用者数は、5.1 人。

【青塚駅～永和駅線】

- ・ 朝便については永和駅 7：20 発の利用が最も多く、神守支所西から乗り、青塚駅南口で降りる人数が最も多かった。夕方便については、永和駅 18：20 発の利用が最も多かった。
- ・ 1 日の平均利用者数は、4.5 人。

《事業の課題》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

「巡回バス通勤・通学対応実証実験事業」の利用者アンケートでは、「実証実験の広報をもっと大々的にした方が良い。」「電車やダイヤに合わせた時間にすると利用しやすい。」「海南病院に通院するのにかなり便利。」「四日市、桑名への通勤に便利」などの意見が得られた。

それらのいただいた意見を見直しに反映させ、市民の方々が公共施設等への移動や買い物、通院など日常生活の移動手段として、より利用しやすい巡回バスをめざして、準備を進めていく必要がある。

また、本事業が継続的な事業となるよう、周知・広報を大々的に行っていき、KPI である「乗車人数」、「デジタルチケットの購入者数」の増加をめざしていく。

《内部評価》

	評価項目	評価	評価について	総合評価
有効性 (40 点)	KPI 達成への貢献度	A	サービス水準が向上された公共交通サービスを実現することで、若者・女性の定住・移住を促すことができると考えられ、総合戦略や KPI 達成への貢献度は大きいと思われる。また、他施策との相乗効果も大きく期待できる。	A
	総合戦略への貢献度	A		
	期待した効果の達成度	B		
効率性 (30 点)	コスト効率	B	本事業を通して、より利用しやすい巡回バスとしていくことで、1 日当たりの乗車人数も増加していき、受益者負担は適切となるとと思われる。	
	手段の最適性	B		
	受益者負担は適切か	A		
持続性 (30 点)	必要な体制は整っているか	A	今後新たに作成を予定している生活情報誌、時刻表・運行ルートマップへの企業広告を募ることで広告事業収入を増加させたり、周知・広報を大々的にデジタルチケット購入者数を増加させたりすることで、必要な財源の見通しをつけていく。	
	必要な技術はあるか	A		
	必要な財源の見通し	B		

《今後の展開》

- ・ 「巡回バス通勤・通学対応実証実験事業」の結果として、津島駅～老松住宅線、青塚駅～永和駅線ともに利用率が低いことから、今回の巡回バスの見直しにおいて、通勤・通学時対応は実施しないこととする。
- ・ ただし、津島駅～老松住宅線の津島駅 7:40 発については、比較的利用率も高く、1 年を通しての定期運行となった場合、利用者の増加も見込めるため、見直しにおいて考慮する。
- ・ 今年度(2026 年度)は、「愛称及びマスコットキャラクターの制作事業」・「デジタルマップ導入事業」、「時刻表・運行ルートマップ作成事業」・「停留所標識の制作及び設置事業」・「停留所周辺の環境整備事業」を実施していく予定である。

担当部局： 総合政策部 ／ 担当課： 企画政策課

官民連携による津島天王通り・ウォーカブルストリートプロジェクト

令和7年度事業額：11,942,200円（総事業費44,667,200円）

交付金充当額（補助率1/2）：5,971,100円（総交付額：22,333,600円）

評価対象期間：令和7年度（事業実施期間：令和5年度～令和7年度）

＜事業の概要＞

本市は、全国の天王信仰の総本社で重要文化財にも指定されている津島神社があり、そこから名鉄津島駅は約1kmの「天王通り」で結ばれている。お寺等の歴史的資源に溢れており、現在も「尾張津島天王祭」を始めとしたイベント等では、市内外から年間20万人以上の人々が訪れ、今も昔も変わらず、天王通り周辺は多くの人で賑わう。しかしながら、日常における天王通りは、人口減少や高齢化の進行、後継者不足などにより空き家や空き店舗が増加しており、昼間でもシャッターが下りた店舗が目立ち、通りを行き交う人の姿は少ない。

本市の総合戦略では、若者や女性がやりがいを持ち、安定した生活を送ることができる雇用の場の創出や起業しやすい環境を整備するとともに、快適で利便性の高い居住環境を整備し、働きながら住み続けられる環境づくりを進めていくこと、及び歴史・文化資源だけでなく、地域の農産品や工業製品、景観、ひと、まちでの暮らし方・働き方などの多様な地域資源を活用してまちの魅力を発信するとともに、交流人口や継続的に地域にかかわる関係人口の創出・拡大などに取り組むことでまちの活力を高め、人の流れを作ることを目指している。

そのための施策として「地域産業の活性化」「駅周辺の活性化」「魅力の発信と関係・交流人口の拡大」等を掲げ、「つしまちあるきキャンペーン事業」「津島駅周辺まちづくり事業」その他の事業を総合戦略の一部として位置付けている。本事業では、後述する空き家・空き店舗の利活用及びリノベーション、賑わい創出事業、アンテナショップ事業等、天王通りにおける多角的アプローチによる日常的な賑わいの創出を目指す。

＜事業の進捗状況＞※主な事業を記載

＜空き家・空き店舗・リノベーション事業＞ 所管：観光・プロモーション課

②



①空き家・空き店舗等の継続的な情報収集

令和5・6年度に続き、空き家・空き店舗の賃借交渉及び出店希望者の継続的な情報収集を行った。

空き家ストック/11件 交渉中/3件 出店希望者/8名 出店者/2名

②空き物件及び活用事例見学会の実施

天王通り周辺の空き物件への出店を促進するため、出店を希望する方を対象とした空き物件及び実際に営業している店舗を巡る見学会を2回（R7.10、R8.3）開催し、合わせて8名が参加した。

③



③空き家・空き店舗リノベーション補助金の交付

市内の空き店舗を改修して令和7年9月にオープンしたハーブティー店の出店者に対して、改修等に係る費用の一部を補助した。



《賑わい創出事業》 所管：観光・プロモーション課

天王通りの空き家・空き店舗を活用し賑わいを創出する事業として、地元の津島高等学校と津島北翔高等学校の2校の参加により、学校対抗シャッターアートコンテスト「COLOR THE STREET」を令和7年10月に開催した。

シャッターアートとして、「ひつじ×津島×未来」をテーマに、高校生が数か月にわたり空き店舗のシャッター（今市場町三丁目14番地）に絵を描き、天王通りに足を運ぶきっかけづくりにつながった。

【実施期間】

作品制作：令和7年7月5日（土）～10月4日（金）

事前投票：令和7年10月6日（日）～10月25日（土）

※Instagram、Facebookにて両校のシャッターアート作品の写真と制作にかけた想いを説明文として掲載し、「いいね」の数とコメント数で投票

現地投票：令和7年10月26日（日） 10時～14時

結果発表：令和7年10月26日（日） 15時

【投票数】

SNS いいね数：276件 SNS コメント数6件 現地投票数：53件

《アンテナショップ事業》 所管：観光・プロモーション課

①UR「まちのたね」



大都市名古屋の中心部である栄の繁華街において、UR都市機構の多目的PRスペース（名古屋市栄地下街）を利用し、アンテナショップを令和7年7月1日（火）から7月6日（日）まで開設し、尾張津島天王祭をはじめとした市の観光、名産品の展示・販売、地酒の試飲を実施した。

期間中の売上は約30万円となり、当市の魅力を広く発信することができた。

②



②μPLAT 金山内「IKO→MaI」（イコマイ）

名鉄金山駅構内で名古屋鉄道株式会社が管理運営する「IKO→MaI」を利用し、アンテナショップを令和8年2月1日（日）から2月28日（土）まで開設し、尾張津島藤まつりをはじめとした市の観光、名産品の販売等を実施した。

期間中の売上は約100万円となり、当市の魅力を広く発信することができた。

《空き家・空き店舗等情報プラットフォームの運営》

所管：観光・プロモーション課

歴史ある町家建築が数多く残っている名鉄津島駅から津島神社までの天王通り周辺エリアに点在する空き家、空き店舗等の情報と課題を共有することにより、利活用を促進し、魅力ある個店を創出することを目的とした「天王通り周辺エリア空き家・空き店舗等情報プラットフォーム」を令和7年3月18日に設立した。

令和7年度は、プラットフォーム会議を3回開催した。

＜メンバー＞

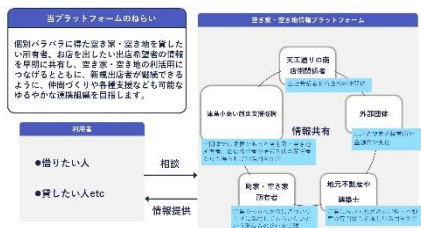
一般社団法人津島小商い創出支援機構、地元不動産業者、建築士
津島市商店街連合会、津島市

＜プラットフォーム会議の開催日及び主な議題＞

- ・開催日：令和7年8月20日（木）、12月2日（火）
令和8年2月25日（水）

- ・主な議題：空き家・空き店舗活用等に関する近況報告、意見交換

⑤ 空き家・空き店舗情報プラットフォームの設立



《KPIの計測》 所管：観光・プロモーション課



①天王通り周辺歩行者通行量調査

日常の天王通り周辺の来街者数を把握するための基礎資料として、天王通りの歩行者・自転車通行量の測定（測定日時：R8.3.26（木）7時～19時）を実施した。※測定点：◎

②天王通り周辺賑わい実感度調査

天王通り周辺エリアのにぎわいの実感度を把握するため、当エリアの事業者29件を対象に聞き取り調査（ヒアリング）を実施した。

《KPIの状況》

	指標名	基準値 (現状値)	中間 目標値		最終 目標値	累計	最終目標値の実施状況 に関する評価
		2022	2023	2024	2025		
指標1	エリアへの新規出店店舗数 (店)	0	0	2	4	6	空き家物件及び活用事例見学会を2回開催したことにより、参加者の出店意欲は高まりを見せている。 令和7年度については、ハーブティー店及びリサイクルショップの2店舗のマッチングが成立した。
	実績値		0	0	2	2	
指標2	エリアの来街者数(人)	300	500	750	1,000	2,250	令和7年度については、前年度と比較すると来街者は減少しているが、基準値は上回る結果となった。
	実績値		359	371	343	1,073	

指標 3	エリアが賑わってきていると回答した事業者の割合 (%)	0	5	10	20	35	すべてのイベント終了後に、事業者への「にぎわい実感度」を聞き取りした。 最終年度は、目標値を達成することはできなかったが、令和7年12月オープンの宮きしめん、令和8年4月オープンのつしまクロスへ期待する声が、意見にあがっていた。
	実績値		15	16	7	12	

《成果》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

空き物件及び活用事例見学会の開催により、参加者の出店に対する意欲や希望者がいることが確認できた。令和7年度については、津島空き家マッチング事業により、本町に2件のお店（ハーブティー店及びリサイクルショップ）がオープンし、うち1件に対しては市が空き家・空き店舗リノベーション補助金を交付し、改修等に係る費用の一部を補助した。

また、天王通りにおいて、地元の津島高等学校及び津島北翔高等学校の協力により、今市場町三丁目14番地の空き店舗のシャッターを利用したシャッターアート大会「COLOR THE STREET」を開催した。作品制作期間、高校生たちは、天王通り周辺に通い続け、津島に対するシビックプライドの醸成につながったとともに、高校生たちがシャッターに描く姿を見てシャッター周辺の店舗営業者や居住者、通行者とのコミュニケーションが生まれる機会づくり、及び来場者が天王通りに足を運ぶきっかけづくりにつながった。

アンテナショップ事業としては、令和5年度から継続して出店してきたUR「まちのたね」の他に、1日あたりの乗降者数が約15万人を超える名鉄金山駅構内の「IKO→Mal」に1か月間出店したことにより、多くの通行者等に対して、市の観光、歴史文化、名産品をPRすることができ、市の魅力を発信することができた。

また、令和6年度に、空き店舗等の情報と課題を共有することにより、利活用を促進し、魅力ある個店を創出することを目的とした「天王通り周辺エリア空き家・空き店舗等情報プラットフォーム」を設立し、令和7年度はプラットフォーム会議を3回開催したことで、空き家、空き店舗活用等に関する近況報告、意見交換、今後の活動内容について確認を行った。

すべてのイベント終了後に天王通り周辺エリア事業者に対して実施した聞き取り調査で得られた意見の中には、宮きしめんやつしまクロスに対する期待を込めた意見もあった。今回得られた結果や意見を参考に、今後の津島のまちづくりに生かしていく。

《事業の課題》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

天王通りを中心とした周辺エリアに日常的な賑わいを創出するためには、来街者が寄ってみたいくなる店舗が増え、新しくできた店舗や魅力ある既存店を広く周知することを目的とした定期的なイベントの開催が効果的である。

店舗を増やしていくための施策として、当市に観光客や来訪者を呼び込み、まちを歩いてもらうことが必要になる。当市では、名古屋鉄道株式会社とタイアップして、お得なクーポン付のきっぷを販売する「つしまちあるきキャンペーン」や、市内の寺社と協力し参加者が寺社を巡りながら御朱印集めやまち歩きを楽しむ「津島てら・まちご縁結び」を継続的に開催している。

また、当市では、ここ近年、津島駅周辺のまちづくり再生に力を入れており、第1弾では天王川公園のリニューアル、第2弾として津島神社南側に、名古屋めしの代表核で、創業100年以上の歴史を持つ「宮きしめん」が令和7年12月にオープン。また、第3弾として、天王通り沿いに位置する「旧いちい信用金庫天王通支店」を、市の新たな賑わい交流拠点として「てんのうぴあ」が令和8年4月にオープン、津島市観光交流センターも内装改修を経て令和8年5月にリニューアルオープンし、つしまクロスが本格稼働した。

特に、つしまクロスについては、津島駅から津島神社までの通りの約中間地点に位置し、てんのうぴあ、津島市観光交流センター、両施設をつなぐみなくるパークから構成され、出会いと体験を通じて地域に対する愛着や誇りの醸成とマチナカの賑わいに繋がる多様な交流と活動を生み出す場であり、オープン後は、年間を通じて様々なイベント等が展開される。つしまクロスのオープンにより、人の流れが変わることが期待されるため、引き続き天王通り周辺の空き家・空き店舗の発掘に努めるとともに、新店舗の出店を支援していく必要がある。

一般社団法人津島小商い創出支援機構、地元不動産業者や建築士等により前年度に設立された「天王通り周辺エリア空き家・空き店舗等情報プラットフォーム」がその役割を十分発揮できるよう、官民が連携して空き家・空き店舗の情報と課題の共有に努め、一体となって賑わい創出に向けた事業を実施していく必要がある。

《内部評価》

	評価項目	評価	評価について	総合評価
有効性 (40 点)	KPI 達成への貢献度	B	「まちの活力を高め、人の流れをつくる」という総合戦略のもと、天王通り周辺のエリア活性化に向けて非常に効果的な事業である。また、津島駅周辺まちづくり構想により取り組んでいる、他施策との相乗効果が大きく期待できる。	A
	総合戦略への貢献度	A		
	期待した効果の達成度	A		
効率性 (30 点)	コスト効率	B	本事業は、空き家・空き店舗の利活用及びリノベーション、賑わい創出事業、アンテナショップ事業等、多角的アプローチにより日常的な賑わいの創出を目指す事業であり、最終年度はこの事業を通じて2件出店したため、手段及びコストは最適である。	
	手段の最適性	A		
	受益者負担は適切か	B		
持続性 (30 点)	必要な体制は整っているか	A	一般社団法人津島小商い創出支援機構、地元不動産業者や建築士等により設立された「天王通り周辺エリア空き家・空き店舗等情報プラットフォーム」は、3年間の地方創生事業終了後も情報と課題を共有し、魅力ある個店の創出を継続することとなる。 新店舗出店者を支援していくために、市が創設する補助金の継続が必要。	
	必要な技術はあるか	A		
	必要な財源の見通し	B		

《今後の展開》

本事業は、国のデジタル田園都市構想交付金（地方創生タイプ）を活用した令和５年度から令和７年度までの３ヵ年度事業であり、様々な事業による多角的アプローチにより、歴史ある町家建築が数多く残る天王通り周辺エリアに日常的な賑わいを取り戻すことを目的としている。

事業の対象エリアである、津島駅と津島神社を結ぶ天王通り周辺は、現在取組みを続けている「津島駅周辺まちづくり構想」における、「神社公園エリア」・「歴まちエリア」・「駅前エリア」内に位置している。

「神社公園エリア」では、まちづくり再生第１弾として、天王川公園内に屋外ステージやジョギングコースの整備、「スターバックスコーヒー」が出店したとともに、令和７年度には、より魅力的な公園とするために、ライトアップ大作戦を実施し、公園全体が光に包まれ、幻想的な空間となり、日本一夜景が美しい公園として話題を集めている。

まちづくり再生第２弾として、津島神社南側に、創業１００年以上の歴史があり、熱田神宮にも出店する名高い老舗「宮きしめん」が令和７年１２月にオープンした。宮きしめんは、屋内、個室、テラス席を設け、朝には和食、洋食のお得なモーニングも行っており、連日多くのお客様が来店され、大変賑わっている。また、津島の名産品も販売しており、市のＰＲにも力を入れていただいている。

「歴まちエリア」においては、まちづくり再生第３弾として、市の新たな賑わい交流拠点「てんのうぴあ」が令和８年４月にオープン、津島市観光交流センターも令和８年５月にリニューアルオープンし、つしまクロスが本格稼働した。つしまクロスを管理運営する代表企業は、「丸善ジュンク堂書店」をグループ企業に持つ「丸善雄松堂株式会社」で、オープン後は、子どもから大人まで楽しむことができる各種ワークショップや、本屋の強みを活かして、本にちなんだイベントを行っている。特にてんのうぴあは、オープンカフェやキッズスペース、学習スペース、打合せスペース、多目的スペースを完備しており、まさに多世代が多様な交流と活動を生み出す場であり、津島への愛着や誇りの醸成につながる場であると考えている。

まちづくり再生第１弾から第３弾に引き続き、令和８年６月には、津島駅東側に新たなにぎわい・交流拠点として『津島駅東側駅前広場』が完成し、供用開始した。

これらの取り組みが、日常的な賑わいを取り戻す大きな核となり、観光客や来訪者の増加につながっていくことを期待する。

市内のまちを歩いていただく＝回遊性を高めていく施策としては、「つしまちあるきキャンペーン」や「津島てら・まちご縁結び」等これまで実施してきた事業をさらに魅力的な事業としてブラッシュアップしていく。また、令和８年度には津島市と愛西市で連携した観光ツアーを初めて実施することで、これまでこの地域を訪れたことがない人にアプローチするとともに、回遊性の向上につなげていく。

当市では、令和８年度から、これまで空き家・空き店舗に対して行われる改修等に係る経費の一部を補助する「空き家・空き店舗リノベーション事業費補助金」から、補助金の対象エリアを拡大するとともに、改修費の他に、備品購入費や広告宣伝費に充てられる新たな補助金「創業支援補助金」を創設し、より使いやすい補助金とすることで、利活用の促進を高めていく。新たな補助金の創設に伴い、各種創業支援事業を実施している津島商工会議所やいちい信用金庫、また、一般社団法人津島小商い創出支援機構、地元不動産業者や建築士、津島市商店街連合会、市で構成される「空き家・空き店舗等情報プラットフォーム」とさらに連携を深めていくことで、賑わい創出に向けた事業を実施していきたい。

(仮称) シビックプライド醸成拠点整備事業

令和7年度事業額：501,901,000円（総事業費501,901,000円）

交付金充当額(補助率1/2)：250,950,000円（総交付額：250,950,000円）

評価対象期間：令和7年度（事業実施期間：令和7年度）

《事業の概要》

市では、令和3年に策定した第5次津島市総合計画において、地域の稼ぐ力とまちの活力を高める視点の一つとして、人口減少の大きな要因となっている20～30歳代の若い世代の転出を抑制するため、子育て施策の充実と併せて、学校や地域活動を通じて、地域に対する誇りや愛着を育み、将来的な地元回帰を促すことが必要だと考えている。

そこで、令和4年3月に「津島駅周辺まちづくり構想」を策定し、まずは市が投資役となり、金融機関から寄附された旧いちい信用金庫の建物と、近隣の既存施設である観光交流センター、それらを繋ぐ旧駐車場を(仮称)シビックプライド醸成拠点として、活動や交流・賑わいが生まれる話題性のあるパブリックスペースに整備する方針を定めた。令和4年度から実施してきた社会実験やワークショップで市民から出された意見をもとに、旧いちい信用金庫の建物及び旧駐車場について、子育て世代がこどもと気軽に楽しめ、若者が多様に活動でき、すべての人が居心地良く過ごせる場所を作ること、中心市街地の暮らしと生活の質、さらに地域の価値を高め、若者・女性に選ばれる地方を実現し、賑わい溢れるまちの形成を目指す。

整備にあたり、令和6年度にプロポーザルを行い、4者から提案を受け、丸善雄松堂株式会社を代表企業とする津島市シビックプライド醸成拠点共同事業体が選定され、令和7年度は整備工事を行った。さらに、公募及びワークショップの結果、旧いちい信用金庫は「てんのうびあ」、旧駐車場は「みなくるパーク」という名称に、てんのうびあ、みなくるパーク及び観光交流センターを総称して「つしまクロス」という愛称に決定した。

《事業の進捗状況》※主な事業を記載

《シビックプライド醸成拠点整備工事①》 所管：観光・プロモーション課

みなくるパーク（令和8年2月22日オープン）※駐車場含む

駐車場だった場所を緑と憩いの広場へ改修した。てんのうびあの北側から延びる庇と、天王川公園で剪定された桜の木の軸葉からできた緑色のタイルが特徴的なベンチ、天然芝及び季節で楽しめる植栽を設置した。

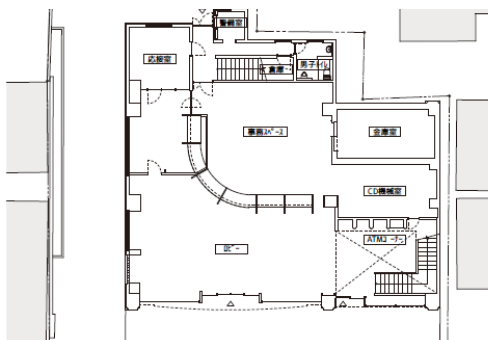


《シビックプライド醸成拠点整備工事②》 所管：観光・プロモーション課

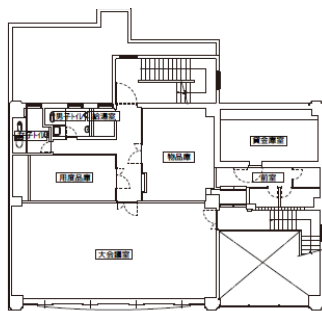
てんのうぴあ（令和8年3月17日完成、4月3日オープン）

旧いちい信用金庫の建物を賑わい交流施設として整備した。1階はフリースペース、キッズスペース、カフェスペース、事務所、授乳室、2階はちいきコーナー、スタディスペース、打合せスペース、3階は多目的スペースとキッチンスタジオを整備した。

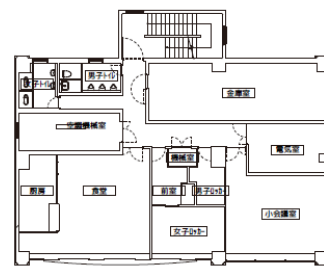
てんのうぴあ平面図（上：改修前 下：改修後）



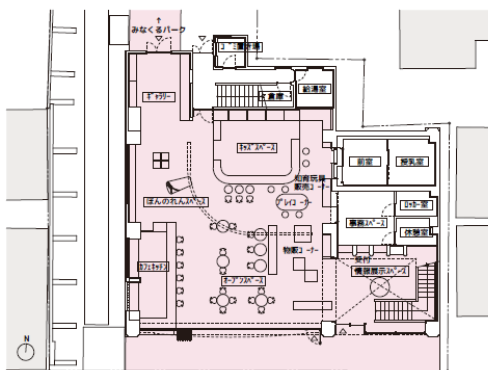
天王通り 改修前 1階平面図
(旧いちい信用金庫)



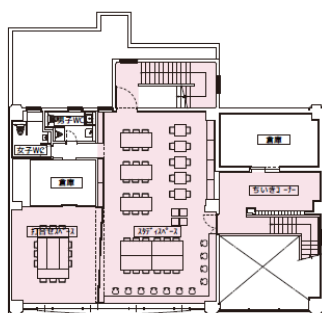
改修前 2階平面図
(旧いちい信用金庫)



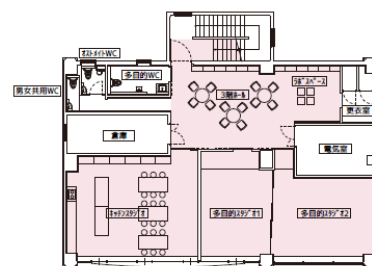
改修前 3階平面図
(旧いちい信用金庫)



天王通り 改修後 1階平面図



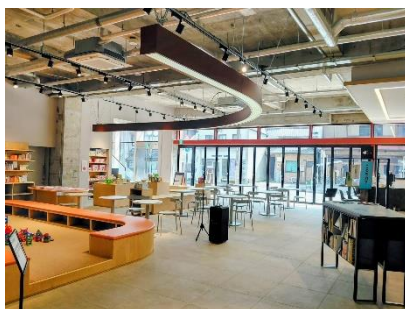
改修後 2階平面図



改修後 3階平面図



1階 フリースペース、カフェスペース、キッズスペース



2階 スタディスペース



2階 スタディスペース、
打合せスペース



3階 キッチンスタジオ



3階 多目的スペース

≪KPI の状況≫

	指標名	基準値 (現状値)	最終 目標値	累計	最終目標値の実施状況に 関する評価
		2024	2025		
指標 1	地域の人口（施設周辺の都市機能誘導区域の人口）（人）	8,608	170 (増加分)	170	最終目標値は令和 8 年 4 月 1 日の人口（8,482 人）から算出。2025 年度（令和 7 年度）は工事のみのため、今後の動向を検証する。
	実績値		▲126	▲126	
指標 2	施設来館者数（人）	0	0	0	2025 年度は工事を行ったのみであり、指標 2～4 の目標値及び実績値は 2026 年度以降に計測・評価する。
	実績値		0	0	
指標 3	施設内での活動数（イベントやワークショップの開催等）（回）	0	0	0	
	実績値		0	0	
指標 4	上記活動への参加者人数（人）	0	0	0	
	実績値		0	0	

≪成果≫※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

KPI の指標については、令和 8 年度以降の管理運営を行った成果として想定している目標値であり、令和 7 年度は工事のみの実施であるため数値なし。事業の進捗としては、みなくるパーク及びてんのうぴあは計画通り工事が完了し、令和 8 年 2 月 22 日にみなくるパーク、4 月 3 日にてんのうぴあがオープンした。参考として、令和 8 年 4 月のてんのうぴあの来館者数は延べ 6,591 人（観光交流センターは改装のため閉館）、5 月のてんのうぴあの来館者数は延べ 6,179 人、観光交流センター（5 月 21 日リニューアルオープン）は延べ 1,396 人となっており、好調な走り出しを見せた。

また、キッズスペースやスタディスペースには、それぞれ親子、学生を中心に利用され始めており、女性や若者の姿を見ることができるようになった。

≪事業の課題≫※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

KPI 指標 1、地域の人口（施設周辺の都市機能誘導区域の人口）は長い目で検証していく必要があり、女性や若者に選ばれるためには、スポット的なイベント時のみならず、日常的に賑わいを創出しなければならない。

また、オープンして間もないということもあり、施設の認知度がまだ十分でなく、貸出スペースの稼働率が低い。一方で、地域住民からの多様なニーズや要望も出てきており、柔軟に対応しつつも、サービスが偏らないよう、バランスの取れた管理運営が求められる。

《内部評価》

	評価項目	評価	評価について	総合評価
有効性 (40 点)	KPI 達成への貢献度	B	オープンしたばかりであるため、本事業の具体的な有効性は今後検証することとなるが、来館者数については良いスタートを切っている。また、周辺の店舗から、つしまクロスに訪れた方が店舗で飲食・買い物をしてくれているという声もあり、効果が波及しているといえる。	A
	総合戦略への貢献度	A		
	期待した効果の達成度	A		
効率性 (30 点)	コスト効率	A	事業費のうち、約 90%を国からの交付金や基金（寄附）で実施できたことや、DBO 方式で事業者を選定したことから、一貫性のある整備ができた。	
	手段の最適性	A		
	受益者負担は適切か	B		
持続性 (30 点)	必要な体制は整っているか	A	施設の管理運営については、共同事業体による指定管理者制度を導入しており、構成企業の特色やノウハウを活かした管理運営体制が整っている。また、利用料金制度を採用し、指定管理者への貸出スペース利用の収入や、行政財産目的外使用許可による市への収入もあることから、財源確保に努めている。	
	必要な技術はあるか	A		
	必要な財源の見通し	B		

《今後の展開》

施設の管理運営は基本的には指定管理者が行っていくが、短期的な展開としては、まずは人が訪れ、賑わいのある施設として安定的な運営を行う必要がある。そのためには、津島ガイドボランティアや津島おもてなしコンシェルジュ等の地域で活動する組織や団体、市内各学校等と連携してイベントの開催やフィールドワークとして本施設を利用してもらえるよう、関係を構築するとともに、指定管理者自らも多様な世代が参加・交流できるイベントを積極的に開催する。そして、そのイベント等や施設の利便性について Instagram や LINE の SNS を活用して積極的な情報発信を行う。

中期的には、津島に住む人、働く人、訪れる人がまちなかに集まるきっかけを作り出し、様々な出会いや体験を通して地域に対する愛着が芽生え、特に若者や女性が「津島で暮らしていきたい・関わっていきたい」と思えるような場所に成長させる。

さらに将来的には、本施設で生まれた交流や活動を周辺にまで波及させるとともに、津島駅、天王川公園、津島神社及び観光ターミナル（宮きしめん）等と連携し、「住む人に加え、働く人、遊ぶ人など時間を過ごす人が絶えることなく持続的に存在するまち」の実現に努める。

担当部局： まちづくり推進部 ／ 担当課： 観光・プロモーション課